

資産価格の不確実性の下での戦略を提言。

金融市場での実務経験を学術研究に昇華させることで、
資産価格変動の下での企業戦略および政策立案を提案。

異次元緩和や外部環境の変化により、金融市場では資産価格のボラティリティが未曾有に高まっています。資産価格形成のメカニズムが根本的に変化し、予測困難な価格変動が常態化する中、市場安定を前提とした従来の分析には限界があります。本研究では、日本銀行などでの豊富な実務経験と理論研究の両面から、新時代の資産価格変動メカニズムを解明し、企業経営・政策立案への実践的示唆を導き出すことを目指しています。

研究代表者

山川哲史

YAMAKAWA Tetsufumi



立命館アジア太平洋大学
国際経営学部 教授

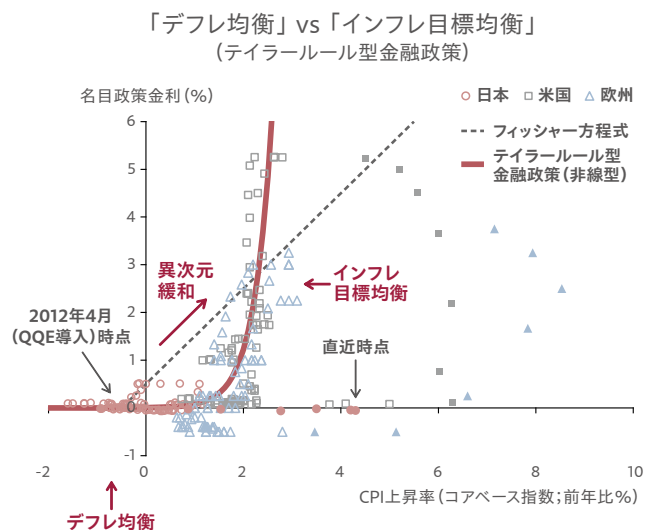
「実務と理論の架け橋となる研究を通じて、新時代における金融市場の理解と、効果的対応の在り方を探ります」

新規性・独自性 | 異次元緩和を含むテールリスクに属する政策運営下での資産価格変動メカニズムを解明。

本研究の特徴は、主に以下の3点にあります。まず、長年の実務経験に基づく市場に対する理解と理論研究の融合です。研究代表者は、日本銀行、ゴールドマン・サックス証券、パークレイズ・キャピタル証券で、合計約45年間の実務経験を有しています。政策当局と市場の双方での経験・実績は、より実践的、かつ多面的な市場・政策分析を可能にしています。

第二に、異次元の政策運営の下での非連続的な資産価格変動のメカニズムおよびその政策運営に対するフィードバック効果に着目している点です。従来の枠組みでは十分に説明できない市場の変化（資産価格の変動率上昇）を、市場経験と理論的観点から捉え直し、新たな分析の視座を提供します。

第三に、国際比較の視点からの分析です。日銀時代には各種国際会議の開催などを担当、ゴールドマン・サックス証券時代には汎アジア経済調査統括部長を務めるなど、長年にわたって培った国際的な視点に基づき、例えば「日本化」現象の国際的な波及（米国における長期停滞論、中国におけるバランスシート調整を含む構造的デフレおよび金融緩和の無効化など）に着目、主要国における政策対応およびその帰結から得られる示唆を導き出します。



注：J. Bullard, "Seven Faces of the Peril, Federal Reserve Bank of St. Louis Review, September/October 2010" を基に作成。「デフレ均衡」は、名目政策金利に対する非負制約の下、ゼロ金利 (ZIRP) とデフレが共存する状態 (state)、「インフレ目標均衡」は長期期待インフレ率が目標インフレ率に「アンカー」される状態をそれぞれ示す。 出所：セントルイス連邦準備銀行

社会連携に向けて | 新時代における金融リスク管理の在り方を模索、企業経営や政策立案への提言を行う。

本研究では、資産価格形成と金融政策の研究を通じて実践的な知見を企業経営や政策立案に還元することを目指し、企業経営者、財務責任者、政策立案者、投資家、研究者との連携を進めていきます。企業に対しては、非連続的な資産価格変動に対応する新たなリスク管理の枠組みを提供し、危機対応プランの策定を支援します。政策立案者には、効果と副作用を包括的に分析するフレームワークを提供。「日本化」現象への各国対応から得られる示唆や、市場構造の変化を

考慮した政策運営について提言を行います。また、AIなど新技術が資産価格形成に与える影響についても研究を進め、異分野研究者との共同研究も歓迎します。

これらの提言は国内外に積極的に発信していきます。特に「日本化」に関する実務経験と研究は国際的にも貴重な事例となるでしょう。実務経験と理論研究を融合した本研究が生み出す知見は、最新の金融論として、国内外の幅広い対象に貢献できるはずです。

